

中日購買力平価に関する研究

李 潔 (埼玉大学) lijie10@eco.saitama-u.ac.jp

泉 弘志(大阪経済大学) izumi@osaka-ue.ac.jp

1. これまでの中国購買力平価 (Purchasing Power Parities ; PPP) に関する推計

中国購買力平価の問題は国際社会から大きな注目を浴びている。その推計に向かって多くの人々による長年にわたる大きな努力が積み重ねられてきている。しかし統計データの制限や方法論の違い等によって中国に関する購買力平価の推計結果はたとえ同じ年のものであっても相互に大きく相違している。50年代から今日までの主な研究成果を表1にまとめる。

表1. 中国PPP推計結果比較表: 中国平均価格の対米比較 アメリカ=1

推計者	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	参考	
	kravis	Taylor	Field	Ren・Chen	Ren	溝口他	篠崎他	李他	PWT 5.5	PWT 5.6	WDI 1998	WDI 2001	為替 レート	
推計対象	GDP	GDP	GDP	GDP	GDP	家計消費支出	国内生産額	GDP	GDP	GDP	GDP	GDP	元/ ドル	
1975	0.25								0.34	0.46			0.64	1.86
1978			0.73						0.32	0.32			0.46	1.68
1980			0.82						0.31	0.31	0.61		0.44	1.50
1981		0.67	0.67						0.25	0.27	0.53		0.38	1.70
1985			0.42		0.32	0.15			0.15	0.27	0.32		0.35	2.94
1986			0.39	0.25					0.14	0.26	0.26		0.29	3.45
1987			0.37				0.05		0.13	0.22	0.24		0.22	3.72
1990			0.33					0.15	0.12	0.24	0.22		0.22	4.78
1992			0.29							0.21	0.20		0.20	5.51
1994								(今回の推計)			0.17		0.19	8.62
1995								0.20			0.19		0.22	8.35
1998													0.23	8.28

主な資料:

- (1) I.B.Kravis(1981) "An Approximation of the Relative Real Per Capita GDP of the People's Republic of China", *Journal of Comparative Economics* No.5
- (2) J.R.Taylor(1991) "Dollar GNP Estimates for China", *CIR Staff Paper* No.59
- (3) Robert Michael Field(1996) "China: the Dollar Value of Gross Domestic Product", *International Comparisons of Prices, Output and Productivity*
- (4) Ren Ruoan and Chen Kai(1994) "An Expenditure-based Bilateral Comparison of Gross Domestic Product between China and The United States", *Review of Income and Wealth Series* 40, No. 4
- (5) Ren Ruoan(1997) *China's Economic Performance in an International Perspective*, OECD Development Center

- (6) Mizoguchi, Toshiyuki, Wang Huiling, Matsuda, Yoshihiro(1989) "A Comparison of Real Consumption Level between Japan and People's Republic of China", *Hitotsubashi Journal of Economics* Vol.30 No.1
- (7) 篠崎美貴・趙晋平・吉岡完治(1994)「日中購買力平価の測定—日中産業連関表実質化のために」
Keio Economic Observatory Occasional Paper
- (8) ①李潔(2001)「購買力平価による中国と日本産業連関表実質値データの構築—1995年を対象として—」『産業連関』第10巻第1号 ②Ren Wen, Li Jie and Izumii Hiroshi(2001) "A Study on China's Purchasing Parities", *The Journal of Econometric Study of Northeast Asia* Vol.3 No.1
- (9-10) Robert Summers and Alan Heston(1993 and 1994), The Penn World Table, Mark 5.5 and 5.6
- (11-12) World Bank(1998 and 2001), World Development Indicators

2. 1995年産業別購買力平価の推計

中国購買力平価の推計に関してはまだ精度の高いものができているとはいえないが、現段階もっとも利用されているものは世界銀行が発表している「世界発展指標」である。表1に示されたように、我々今回の推計結果は平均において世界銀行のそれに非常に接近している。しかし我々の推計方法や目的は、ICPや世界銀行の世界発展指標とは異なり、GDP(支出法による)を実質化するためではなく、物・サービス量でより正確に中日両国の比較分析が実現できるような実質値産業連関表の作成に使用するためのものである。そのため、一本のPPPではなく、中国の各産業別、さらに輸出入品を国内品(国産国内販売品)と区別してそれぞれについて日本の各産業別国内品に対するPPPを推計した。表2はその推計結果と中日産業別国内生産額の比較である。

表2 1995年中日購買力平価

1995年市場為替レート 1元=11.26円

部門	対日本国産品の購買力平価 円/元			国内生産額 単位:億円				
	中国国内品	中国輸出品	中国輸入品	(a)中国 ⁽¹⁾	(a)/(c)	(b)中国 ⁽²⁾	(b)/(c)	(C)日本
1)農林水産業	95.58	37.72	80.63	22,904	1.50	192,340	12.58	15,292
2)鉱業	73.47	20.86	13.22	6,144	3.70	38,101	22.96	1,660
3)食料品	67.09	31.27	28.74	12,067	0.31	69,822	1.80	38,706
4)繊維産業	55.46	26.43	28.04	15,385	1.28	65,571	5.47	11,997
5)製材・紙工業	48.55	16.44	35.00	6,675	0.22	25,425	0.85	29,750
6)エネ・化学工業	52.35	43.66	24.53	19,890	0.29	91,439	1.34	67,990
7)金属・金属製品	44.84	22.57	16.66	12,954	0.32	49,724	1.23	40,382
8)機械工業	54.64	31.55	31.93	22,902	0.18	104,867	0.83	126,674
9)他の工業製品	34.36	25.18	28.38	7,455	0.41	22,470	1.22	18,373
10)建設	85.79	28.70	28.38	15,091	0.16	114,613	1.22	94,062
11)輸送・通信	201.81	28.73	30.99	5,934	0.13	97,010	2.18	44,466
12)商業・飲食業	105.01	28.73	30.99	12,388	0.10	114,389	0.89	129,131
13)教育研究医療	226.81	28.73	30.99	5,034	0.03	101,072	0.69	147,346
14)金融・保険	108.65	28.73	30.99	2,768	0.08	25,783	0.71	36,335
15)公共事業公務	189.18	28.73	30.99	8,678	0.07	140,535	1.12	125,722
合計(平均)	84.36	28.73	30.42	176,270	0.19	1,253,160	1.35	927,884

注:中国⁽¹⁾は為替レートによって元から円に、中国⁽²⁾は購買力平価によって元から円に換算されたものである。

PPP推計に利用した主な価格統計(サービス部門の推計方法と詳細については資料(8)を参照)

中国：『1995年全国工業普查資料』（中国95年鉱工業センサス）、『中国統計年鑑』、『中国物価年鑑1996年』、『中国農村統計年鑑1997年』、日本貿易振興会『中国貿易統計96年版』等
日本：『平成7年産業連関表』付帯表「部門別品目別国内生産額表」等

表2からいくつかのことが読み取れる。

- ① 中国の国内品は日本の国内品よりかなり安い。
- ② 中国の輸入品と輸出品は国内品ほどではないが、やはり日本の国内品より安い。
- ③ 特に国内品同士については、部門間のバラツキが大きい。全体的にサービス部門のギャップは物的部門より大きく、製造業のギャップは他の産業より小さい。
- ④ 国内生産額から見る中日経済規模については、為替レートによって換算される場合は、中国は日本の5分の1しかないが、購買力平価による換算では、中国は日本より大きい。
- ⑤ 中国産業構成は、農林水産業：鉱工建設業(2～10部門)：サービス(11～15部門)の構成比率が、中国価格(為替レート換算)の場合に13.0：67.3：19.7であるのに対して、購買力平価換算によると14.6：48.0：37.4となり、全産業に占める鉱工建設業の比率の低下(67.3⇒46.0)とサービス比率の上昇(19.7⇒37.4)が特徴である。日本価格になおしても日本の1.6：46.3：52.1と比べて、中国サービス業構成比率がなお日本よりかなり低い。